

**第11回（2011年度）佐治敬三賞
第43回（2011年度）サントリー音楽賞
の決定について**

公益財団法人サントリー芸術財団（代表理事・堤剛、鳥井信吾）は、わが国で実施された音楽を主体とする公演の中から、チャレンジ精神に満ちた企画でかつ公演成果の水準の高いすぐれた公演に贈る「佐治敬三賞」の第11回（2011年度）受賞公演を「林千恵子メゾソプラノ・リサイタル『アペルギス&グロボカール』」と「児玉桃ピアノ・ファンタジーvol.1」に決定しました。

なお、わが国の洋楽の発展にもっとも顕著な業績をあげた個人または団体に贈る「第43回（2011年度）サントリー音楽賞」は該当者なしです。

●選考経過

1. 2012年1月9日（月・祝）東京・丸の内の東京會館において、選考委員8名により第一次選考を行い、候補公演を選定した。
2. 引き続き3月19日（月）東京・赤坂のANAインターコンチネンタルホテル東京において最終選考を行い、慎重な審議の結果、選定され、3月21日（水）理事会において正式に決定された。

●賞金 佐治敬三賞 200万円 ※今回は同時受賞につき各100万円
サントリー音楽賞 700万円

●選考委員は下記の8氏。

磯山 雅・伊東 信宏・岡田 暁生・岡部 真一郎・白石 美雪・檜崎 洋子・
沼野 雄司・三宅 幸夫

（敬称略・50音順）

「佐治敬三賞」の第11回（2011年度）受賞公演

●林千恵子メゾソプラノ・リサイタル『アペルギス&グロボカール』

<贈賞理由>

種々の特殊な発声や身体表現を織り交ぜ、高度な演劇的パフォーマンスを醸成する現代声楽作品、アペルギスの《レシタシオン》とグロボカールの《安全の向こう側》および《セカンド・ソーツ》による、無伴奏のリサイタル。パリを本拠として活動する林千恵子氏が、3つの難曲を並べたプログラムによって前衛声楽の最先端に立つ至芸を披露し、聴衆の驚嘆を誘った。中でもアペルギス作品における、人声の可能性を極限まで駆使する多彩な表現力は圧巻。グロボカール作品ではオブジェ化された声の扱いが徹底したコントロールにより、音楽的にも精緻に再現された。どちらの曲においても、超絶的な唱法から繰り出される声音が無機的な情報に解体されることなく、表現の美しいまとまりを保つとともに、生身の人間の熱のこもった感情表現と結びついて訴えかけたことがすばらしい。アペルギス（ギリシャ）、グロボカール（スロヴェニア）という2人の作曲家の独創性が十分に引き出されていたことも、成果のひとつである。最後、アンコールとして《レシタシオン》第9番が日本語で歌われ、聴衆とのつながりはいっそう深められた。以上の観点から日本の声楽界、作曲界に一石を投じる画期的なコンサートであったと評価し、佐治敬三賞を贈呈する。

<公演概要>

名 称：林千恵子メゾソプラノ・リサイタル『アペルギス&グロボカール』

日 時：2011年7月27日（水）19：00開演

会 場：門仲天井ホール

曲 目：ヴィンコ・グロボカール：セカンド・ソーツ

 ヴィンコ・グロボカール：安全の向こう側

 ジョルジュ・アペルギス：レシタシオン全曲

出 演：林千恵子（メゾソプラノ）

企画協力：足立智美

制作・主催：ナヤ・コレクティブ

●児玉桃ピアノ・ファンタジーvol. 1

<贈賞理由>

児玉桃氏の9月に行われたリサイタルは、企画性、そして演奏の質の高さの両面において、佐治敬三賞にまさに相応しい充実した内容を持ったものだった。

ショパンとドビュッシーをメインに据えた演奏会、と聞いて誰もがすぐに思い浮かべるであろう月並みのプログラムとは明らかに一線を画していた。しかし、シューマンの小品で幕を開け、ドビュッシーとショパンのチェロソナタを組み合わせるアイディアは、何ら奇を衒ったものではない。これは、優れてフランス的なチェロを奏するサルクを招いたからこそのものであるが、ショパンとドビュッシーという2人の作曲家と深く結びついた街、パリを拠点とする児玉のアーティストとしてのバックグラウンドの極めて自然で、個性的な反映でもある。

さらに、同じくパリと関わりの深い作曲家、権代敦彦による委嘱新作の初演が組み込まれていたことも、見逃されてはならない。新作の委嘱そのものが、様々な意味で一つの「チャレンジ」であることについては改めて言うまでもあるまいが、それがプログラムのコンテクストに見事に収まり、ショパンやドビュッシーの古典と有機的に結びついて、リサイタルの「鍵」とも言うべき位置を占めていたことは、特筆に値する。児玉桃氏の力の籠った演奏も忘れ難い。

そして、このような極めて密度の高いリサイタルが、900円という廉価なチケットにより、幅広い層に親しめるシリーズとして長年に渡って続けられてきた点も、評価されてしかるべきであろう。休日の午後のリサイタルを「入門編」のお題の下、水で薄めたり、甘い味付けを施したりといった小手先の策を労するのではなく、むしろ、アーティストと真正面から向き合い、正攻法で「本物」を届けんとする志も、佐治敬三賞に正に相応しいものと考えられる。

<公演概要>

名称：児玉桃ピアノ・ファンタジーvol. 1

日時と会場：2011年9月17日（土）14：30開演

京都府立府民ホール “アルティ”

2011年9月19日（月・祝）14：00開演

東京文化会館 小ホール

曲目：R.シューマン：民謡風の5つの小品 op.102

権代敦彦：カイロス ピアノのための op.128 — その時

C.ドビュッシー：チェロとピアノのためのソナタ

I. Prologue : Lent – sostenuto e molto risoluto

II. Sérénade : Modérément animé

III. Final : Animé,léger et nerveux – Lento

C.ドビュッシー：前奏曲より

「音と香りは夕暮れの大気に漂う」

「枯葉」

「オンディーヌ」

F.ショパン：チェロとピアノのためのソナタ ト長調 op.65

I. Allegro moderato

II. Scherzo : Allegro con brio

III. Largo

IV. Final : Allegro

出演：児玉桃（ピアノ）、フランソワ・サルク（チェロ）

主催・企画制作：22世紀クラブ

以 上

(ご参考) 佐治敬三賞について

公益財団法人サントリー芸術財団(代表理事・堤剛、鳥井信吾)は、当財団の設立者である故・佐治敬三(サントリー元会長)の功績を記念して、2001年度(平成13年度)から「佐治敬三賞」を創設しました。

この「佐治敬三賞」は佐治の音楽への深い愛情と理解およびチャレンジ精神、パイオニア精神を承継し、新しい世紀のわが国における音楽公演活動の一層の振興を願って、氏の名を冠した新しい賞として制定されました。

この賞は、毎年わが国で実施された音楽を主体とする公演の中から、チャレンジ精神に満ちた企画でかつ公演成果の水準の高いすぐれた公演に贈られるもので、応募のあったものの中から選定されます。賞金は200万円。

故・佐治敬三は、早くから文化事業への支援に力を入れ、特に音楽界においては鳥井音楽財団(現サントリー芸術財団)を設立、サントリー音楽賞をはじめとするわが国の洋楽の振興を目的とした諸事業のほか、東京初のコンサート専用ホール「サントリーホール」の建設・運営などを行ってきました。

1999年11月3日に急逝した佐治の遺族から“音楽界のために役立ててほしい”として遺産の一部が寄付されたことから、財団で検討した結果、「佐治敬三賞」の創設にいたりました。

これまでの受賞公演

第1回(2001年度)

「篠崎史子 ハープの個展VIII ～新たな領域を求めて～」

2001年10月19日 東京文化会館小ホール

「Just Composed 2001 in Yokohama ～現代作曲家シリーズ

～大野和士が描く新世紀の音楽絵巻」

2001年8月31日 横浜みなとみらいホール

第2回(2002年度)

「アンサンブル・ノマド2002年度定期演奏会#1」

2002年9月17日 東京オペラシティ・リサイタルホール

第3回（2003年度）

「現代の音楽展2003 室内オーケストラの領域 III」

2003年3月17日 東京文化会館小ホール

第4回（2004年度）

「三井の晩鐘」

2004年10月24日 イシハラホール

第5回（2005年度）

「next mushroom promotion vol.8 『細川俊夫～50年のランドスケープ』」

2005年10月15日 ムラマツリサイタルホール新大阪

第6回（2006年度）

「武生国際音楽祭2006」

2006年9月2日～10日 越前市文化センター他

第7回（2007年度）

「フランス現代音楽からの潮流～井上麻子×藤井快哉 DUO」

2007年11月17日

兵庫県立尼崎青少年創造劇場ピッコロシアター

第8回（2008年度）

「実験室 vol.2 『偽のアルレッキーノ／カンパネッロ』」

2008年3月27日・28日 ミレニウムホール

第9回（2009年度）

「クロノイ・プロトイ 第5回作品展～弦楽四重奏の可能性」

2009年12月9日 東京オペラシティ・リサイタルホール

第10回（2010年度）

「井上郷子^{きょうこ}ピアノリサイタル#19 モートン・フェルドマン作品集」

2010年2月28日 東京オペラシティ・リサイタルホール

「東京シンフォニエッタ第28回定期演奏会 湯浅譲二特集」

2010年12月10日 東京文化会館小ホール

第12回（2012年度）「佐治敬三賞」応募について

2012年1～6月実施公演の応募受付は終了しました。

2012年7～12月実施公演の応募方法は以下のとおりです。

- ・対象公演 2012年（平成24年）7月1日から12月31日の間に国内で実施される音楽を主体とする公演。
- ・応募方法 所定の応募用紙にて応募いただきます。公演の記録映像、録音、印刷物などがある場合は資料として提出いただく場合があります。応募要項・用紙は、住所・氏名・電話番号を明記の上、郵送またはFAXにてサントリー芸術財団までご請求下さい。また財団ホームページからもダウンロードできます。
- ・応募期間 2012年4月1日（日）から5月31日（木）
- ・お問合せ先 サントリー芸術財団音楽事業部
〒107-6022
東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル22階
私書箱509号
電話（03）3582-1355
FAX（03）3582-1350
<http://suntory.jp/SMF/>

以 上